14）九州歯科大学昇格について

Raised to university status of Kyushu Dental College.

北九州市　上潟口　武
九州歯科大学　小林　繁
日本歯科大学新潟生命歯学部
医の博物館　樋口　輝雄

Takeshi Kamigatakuchi, *Kitakyushu City*
Shigeru Kobayashi, *Kyuhsu Dental College*
Teruo Higuchi, *Museum of Medicine and Dentistry*

樋口は「占領下日本における歯科医学教育の改革の諸問題」を発掘，調査の一連の作業中に福岡県立医学歯学専門学校のＢ級決定から九州歯科大学昇格にいたる経過のなかに，未明の点があるとして関連した資料提供と，不明の個所の問い合わせをした．

九州歯科大学には製本された「九州歯科大学五十年史」「六十年史」「七十年史」が上野，嶋村らによって編纂された資料があるので，それ以上の疑問は持っていなかった．

当時の関係者は何れも高齢者となり次第に数少なくなり，当時在籍者であった演者はいちばん下の職員として当時の重大な問題には関知できなかった．

これらの正史としての資料の外に，なにかないかと照会があった折，リジレー中佐の名前と，視学官の真鍋満太委員の風貌を記憶しているだけを返答した．

今回樋口から提供を受けた資料と「九州歯科大学五十年史」を主に比較してみると，いろいろのことが分かったので報告する．

※　樋口資料によると，敗戦直後
昭和 20，10，25.
在京歯科医学専門学校長協議会
21，1，16.
全国歯科医学専門学校長会議
◎Ａ級Ｂ級に分ける
21，4，15.
歯科教育審議会発足
21，4，22.
特別委員会構成
○校長８名中に永松勝海あり．
◎リジレー報告書（英文）21，5，15.
福岡県立医歯専現況報告書に学校予算が医学歯学の教育の二つに分配されていない，そのため支出は両方で使用されている．
21，11，27.
第６回総会（歯科教育審議会）
○歯科視学委員の任命（任期２年）
花沢　鼎，堀内　清，真鍋満太，
中川大介，豊田　実.
22，2，(22) 24.
福歯専，真鍋満太委員視察
22，3，31.
○Ｂクラス決定通知.

※　21，5，6.（以下九歯大年史）
福岡県立医学歯学専門学校
◎大学昇格期成会結成
21，10→12，10.
大学昇格予算案作成（医，歯，予科）
◎県会にいれられず.
以上を整理すると，永松勝海校長は教育審議会に出席して，母校の将来に危惧感を抱き，大学昇格期成会を結成したが県の同意がなく．一方 22，2，24，(22)
真鍋満太視学委員の視察の結果，
22，3，31.
○Ｂクラス決定通知
理由：医学視学の両機構を持つ，県が大学昇格を考えず，昇格の手続きをしていない．
以来永松勝海校長，清永盛樹同窓会長は期成会を強化，父兄会，同窓会の機構を整備して募金を募り，地元北九州五市，福岡山口両県歯科医師会などに働きかけ，活発な活動を続け，地元負担金を作って県に働きかけた．
22，6，4.
定例議会に予算提出
22，11 月
○第一期施設整備完了.
◎文部省宛再度現地指導を乞う.
この後設立認可に到る資料が出たので述べる．

「白亜」４月号　大学昇格祝賀特別号

「白亜」はそれまで専門学校時代，校友会発行の

「デンタルサイエンス」があったが，大学昇格と共に大学編集部発行となった．半紙二つ折りガリ版刷りの冊子である．その見開きの次に九州歯科大学学長代理，永松勝海の「大学昇格に関する経過並に内容に就て」の報告がある．（以下仮名遣い原文のまま）

1．昇格予算額　1千万円
　県側　400万円
　学校側600万円
　　父兄会，同窓会，北九州五市，九州，山口歯科医師会，篤志会，金額省略．

2．昇格に関する視察並に委員会
　昭和22，11，真鍋，中川，豊田委員並に文部省事務官の視察あり，多少の増築及び設備，図書室整備及び数の増加，教授団の強化等好評あり．（講評か？　以下おなじ）
　23，11，18，真鍋，豊田，中川委員並に文部省事務官の視察あり，良好なる評あり．
　24，2，1，草馬設置委員，文部省事務官の視察あり，良好なる好評があると共に，一方来たる三日の審議会へ良好なる旨の打電あり．
　24，2，3，審議会通過す．
　24，3，10，合同委員会通過す．
　24，3，16，新制大学設置委員総会通過．
　24，3，25，文部大臣より認可あり．

3．その他の項省略．　　以上

2．の昇格に関する視察並びに委員会の報告の中に設置委員，新制大学設置委員会の名称が現われている．これは歯科に進学課程を設置する過程で生じたもので，大学設置審議会，設置審となり，教育審議会視学委員の視察を経て，審議会，合同委員会を通過したものを設置審総会で承認通過され，答申を経て文部大臣の認可となっている．

（樋口提供，正木，長尾資料）

大学設置審議会委員（歯科）
長尾　優，加藤清治（後に中原　實），飯塚淳一郎，奥村鶴吉，中川大介，金森虎男（東大医），草間良男（慶応大医），小池敬事（千葉大医）の八名である．　（樋口提供，正木資料）

次に真鍋 満太診療所における研修生という鶴島亀岩氏の談話がある．（平成20，2，22）

昭和22年2月24日，真鍋満太視学委員の母校視察の結果，Bクラスに決定した（3月31日付）その後，河野健祐教授（前付属病院長）の斡旋で福岡県の東京事務所を宿所として，一月ほど宿泊して真鍋満太氏の診療所に通い，当時の新しい陶材冠ポーセレン・ワークなどの研修をうけた．参加人員は山内覚，清本和房，毛利邦男，鶴島亀岩ほか二，三人だったと思う．皆当時補綴教室の教員．鶴島氏はこの証言後まもなく死去された．

以上は数少ない九州歯科大学昇格の表裏の資料と思われる．なお蛇足であるが永松勝海学長，河野健祐教授，真鍋満太視学委員は日本歯科大学の同窓生である．

15）麻布長谷寺の伊澤道盛・信平の墓

The Tomb of the Dosei and Shimpei Izawa of Azabu Chokoku-ji

医の博物館　樋口　輝雄

Teruo Higuchi, *Museum of Medicine and Dentistry*

東京港区・西麻布にある長谷寺は，曹洞宗大本山永平寺の東京別院で，芸能人では坂本九や沖雅也らの墓がある．この区域はかつて麻布笄町と呼ばれ，江戸後期の考証医家伊澤蘭軒の墓は港区の文化財に指定されており，長谷寺の墓地には伊澤一族が眠る．伊澤家の事績については，森鷗外が史伝小説『伊澤蘭軒』に詳しく記述しており，本家は麻布鳥居坂，現在の東洋英和学院のそばで開業し代々福岡黒田藩の口中医を務めていた．

宗家七世の信崇は道盛と号し，幕末に「漢方口歯科」を学ぶが，明治草創期に小幡英之助の門人となり，近代歯科医学を教授された．『歯科医事衛生史前巻』（昭和15年）には「此時，官試を経て歯科を東京に開いた小幡英之助に津田仙より紹介され其門に入り西洋歯科医術を習得したのである．…9年又は10年頃，松川修に嘱してタフト氏歯科治療学，メレディス歯科治術学を翻訳せしめ自己勉学の資となした」との記述がある．「松川に翻訳せしめた」原書とは，Taft, J の“A practical treatise on operative dentistry”と Meredith, LP の“The teeth and how to save them”だろう．道盛が明治14年に出版した『固齢草』にはメレディスの著書からの引用が多い．この松川修について大植四郎の『明治過去帳』に記述があり，国立国会図書館は松川の漢詩文集『蛟洲遺稿』を所